



[掲載日: 2017年10月]

### ■ お客様のコアビジネスへの理解がAI推進の原動力となる

デジタル革新が起こり、既存の概念を超えた新たなビジネスが登場し、ICTの世界は大きく変わっています。このように激しく変わる流れの中で富士通は基本方針として、1) コア事業 2) グローバルフロント 3) 独立事業の3つのエリアの強化を挙げています。中でもAI基盤事業本部としては、コア事業の強化を最優先と考えています。

特にAIは社会全体を支えるキーテクノロジーになると捉え、AIにおける研究能力、開発力を高めようとしています。この分野で成功するためには技術をお客様に届ける仲間づくりが欠かせません。産官学連携やベンダーとの協業、世界中の企業と連携し、技術やサービスモデルを持ち寄ることで、新たなビジネスを創出していく「エコシステム」の構築が、これまでにない新たな価値を創造できると考えています。



これまで富士通の強みは、お客様と密接に連携しながら、ビジネスを進めてきたところにありました。しかし、これからはお客様のコア事業の本質を理解しなければ、AIをどこに適用すればいいのかが分かりません。業界や業務における専門知識を有しながら、お客様のコア事業を深く掘り下げていくことが必要です。AIの世界では、業界に精通している人が求められる一方で、ビジネスという「リアルな世界」と量子コンピュータのような「テクノロジーの世界」を上手くマッピングしていく必要があります。もちろん、一人で全てをクリアするのではなく、チームとしてどうビジネスを創り出していくのかを考え、チームメンバーともお客様とも連携しながら動いていくことが必要です。

## ■ ディープラーニングや量子コンピュータ、スーパーコンピュータ「京」の3つを軸に世界へ

私たち、サービスプラットフォーム部門はサーバや携帯などのモノをはじめ、それに付随するクラウドやソフトウェアなど、富士通のサービスやソリューションのプラットフォームを技術で支えてきました。その中で、AI基盤事業本部は、機械学習である「ディープラーニング」と、富士通が新たに共同開発した画期的な計算機アーキテクチャである「デジタルアニーラ」と呼ばれる全く新しいハードウェアとの二つを軸に、最先端テクノロジー分野からAI基盤を支えています。

2017年5月にデジタルアニーラに関する富士通と1QB Information Technologies Inc. (以下1QBit)との協業について発表しましたが、富士通は、1QBitが開発した、量子コンピュータ向けソフトウェアと、このデジタルアニーラにより、実世界の様々な組み合わせ問題の最適解を高速に得るプラットフォームを提供しています。

ディープラーニング、デジタルアニーラ、理化学研究所と富士通が共同で開発した「京」に代表されるスーパーコンピュータの3つを最適な形で組み合わせ、30年以上にわたって蓄積してきたAIの知見と技術を「Zinrai」として体系化することで、お客様に最適なソリューションを提供することが可能になりました。富士通はこの3つを有する世界有数の企業として、世界の最先端企業から注目を集めています。

AIで新たなステージへ進むためには、私たちの技術を届けてくれる仲間を増やしていく必要があります。特定企業と組むのではなく、ビジネスや状況に応じた多様な拡がりが必要だと考えています。その中で、私たち富士通がAIでどんな実証実験(PoC: Proof of Concept/PoB: Proof of Business)を行っているのか一例をご紹介します。

2016年11月に福岡で道路の陥没事故が起きたことは、記憶に新しいのではないのでしょうか。このような世界で増加傾向にある道路陥没事故を「Zinraiディープラーニング」で見つける事例にも取り組んでいます。現在は陥没事故を防ぐために、地中探査用レーダーを使って、地中の状況を可視化する方法がとられています。しかし熟練した専門家でなければ、地下空洞なのか埋設管なのかが判別できませんし、レーダーが収集した膨大な画像データを目視により判定しているため、増大する作業負荷が課題となっていました。そこでディープラーニングを適用することで目視と比較して効率よく的確な空洞の判別を実現しています。

このように、今、人が見て判断する作業をディープラーニングによってより早くより正確に判断する取り組みをしています。これまで富士通があらゆる産業分野で培った技術やネットワークを駆使して、AIの分野で新たなビジネスを生み出すための挑戦を始めています。

## ■ 富士通へ新しい風を吹き込み、刺激を与え合う存在になってほしい

これまで私たちの部門は、スーパーコンピュータ「京」のCPUの開発を手掛けるなど、常に最先端技術に触れ、日々学びながら技術を適用できる、できないを判断し、仕事を進めてきました。

しかし機械学習やディープラーニングの基本的な仕組みのひとつであるニューラルネットワークの技術は、3カ月経つとがらりと変わってしまう、技術革新のスピードがとりわけ速い分野です。世の中が今、どうなっているのかを把握して、どういう立ち位置なのかを知り、お客様の考えも理解しないとイケません。これから仲間になっていただく皆さんには、富士通以外の世界を知っているという点を活かして新たな風を吹き込んでほしいと大きな期待を寄せています。富士通という企業基盤を活かしながら、ベンチャー企業のようにスピード感をもって海外を含め、考え方、見識を拡げ、いろいろな人とつながっていただきたいと考えています。

私たちが掲げる「Digital Co-creation」は決してスローガンだけにとどまりません。お客様のコア事業を理解し、会話をしながら、AIの最適な活用シーンを見出ししていく。入ることが簡単には許されないコアなビジネス領域に入り、最終的には「一緒にやろう!」とやっていただけのようなお客様との関係構築が重要になります。これまで私は、データベースエンジニアを経て、モバイルフォンのソフト開発の最前線で走ってきました。そのときに感じたのは、技術革新のスピードの速さ、大きな波(変革)への対応力と、波の先を見る力の重要性でしたが、今はこれまで以上に、ビジネスのスピードが加速し、先の未来を見据えながら、可能性を見出ししていく力が必要になっています。

AIの分野は、どの業界でも適用を試みており、ビジネスと技術が切り離せない時代です。私は、そこで重要なのは「外の世界を知る」「自ら道なき道を切り拓く」「スピード」の3つだと部門のメンバーに伝えています。「誰もやったことがない」、「できない」ではなく、「こうしたらできる」を常に提案する思考で動いてくれる方に来ていただきたいです。新たな仲間が増えることで、お互いが刺激を受け、相乗効果で素晴らしいチームを作り上げていきたいと思っています。ぜひ皆さんの力を富士通に結集させ、新たな未来を共に創りましょう!

shaping tomorrow with you

社会とお客様の豊かな未来のために